

Vol.181

院長 関の

Face to Face

2023年7月1日発行

痛みは病気のサインです。原因を見つけない限り除くことが大切です。しかし日常生活において、痛みのために一日が台無しになることもあり、痛み止めは誰もが簡単に服用してしまいう薬のひとつだと思えます。ところがこの便利な痛み止め、実は副作用も多岐に渡るのをご存知でしょうか。取扱説明書を良く読むと、飲む事を躊躇するような内容が書かれています。

# その症状、鎮痛薬の副作用かも！？



ユーチューブで積極的に医療情報を発信している整形外科医の歌島大輔氏は鎮痛剤の副作用についても警告しています。代表的な副作用は①体重増加②ふらつき③吐き気④便秘⑤アレルギー⑥肝機能の低下⑦喘息⑧出血傾向⑨胃腸のトラブル⑩痛みの原因の悪化等患者さんで複数の悩みを抱えて来院される方の中に日常的に様々な薬を常用さ

れていることがあり、病気なのか副作用なのか分からなくなっている状況があります。もしも鎮痛剤でふらつきが出ているのに、加えてめまいの薬を飲むことになっただら：：これではマツチポンプですよ。お医者さんは副作用にはあまり興味がないように思えます。ご自身が口に入れるものから、十分検討し、悪い変化が出たら薬を疑い、一旦中止する勇気も大切なことではないかと思えます。是非皆さんも取扱説明書や歌島先生の動画をご覧ください。



関 修一(せきしゅういち)  
健育会 東銀座整骨院・整体院・  
鍼灸院・マッサージ院 院長  
代替医療の総合治療院としての  
確立を目指す。タイトルの「Face  
to Face」は「患者さん自身と向き  
合って患者さんの症状と闘う」こ  
とを願ってつけた  
※毎月一日の発行です